

2017 年度第 3 四半期 電話会議 主な質疑応答

- ・ 開催日時 : 2018 年 2 月 7 日(水) 14 時 30 分 ~ 15 時 30 分
- ・ スピーカー : 取締役常務執行役員 CFO 松本 智樹

<今期状況について>

Q.第 3 四半期における日本エリアの油脂・製菓・製パン素材について、実績の評価は

A. 油脂は、原材料高騰は一服も、エネルギーコスト上昇、経費増、およびチョコレート用油脂の販売停滞等が影響し減益となった。ただし、通期予想では当初予想の利益を変更しておらず、4Q で挽回する。製菓・製パン素材のチョコレートは、ケーキ用等の市場の減少が顕著である一方、成形のチョコレートは好調である。クリームなどの乳化発酵素材は、再構築を検討し実行に移しつつある。

Q.製菓・製パン素材のアジアについて、中国の状況は

A.第 3 四半期の 3 ヶ月は、営業利益で中国は減益、アジアで増益である。しかし、中国の販売は足元でも伸びており、来期以降は第 2 工場稼働による外注費用の削減などにより、収益性は改善していくとみている。

Q.現在のブラジル市場環境についてどのようにみているか

A. 今期は、ハラルド社が強みを持つ市場を伸ばしたことで、低収益市場向けの数量は減らしながらも、利益を確保することができた。競合他社との競争は厳しくなっているが、技術とブランドを生かし他社との差別化を実現している。来期は、不二の油脂技術を生かした新製品の販売などで数量を戻していく。

<来期以降の成長について>

Q.国内の製菓・製パン素材について、乳化発酵の構造改革の成果の実現はいつからか

A. 市場の縮小に対し、新市場開拓をいかに進めるかが重要。提案営業の強化、新製品の上市などにより新市場を開拓し、現状をボトムに成長していきたい。

Q. 昨年 11 月に発表した UNIFUJI の稼働による業績への貢献はどのくらいか

A.UNIFUJI は合併先と 50:50 の出資であるため、営業利益には直結しない。しかし、サステナブルな認証油の需要が高まる中、安定的な収益は十分に確保できると考えている。

Q.来期に向けてネガティブ、あるいはリスクとなる要因は。

A.市場環境としては厳しく、楽観視していない。徹底したコストダウンおよび採算性の向上により内部の収益力を高めることが先決であり、その上で顧客とのリレーションを強化していくという両面の施策が必要である。

以上